

## 「書を楽しむために」 書作品の類別とその特質

漢字作品……漢字は大別して、篆・隸・楷・行・草の五種類の書体があり、それぞれに書体そのものの特徴があります。漢字作品はこのいずれかの書体を基本として、作家それぞれの感覚と個性による制作がなされています。これらの書体は、行・草を除いては、同文の中で混用する習慣はほとんどありません。

【篆書】漢字の中で最も早く生まれた書体です。紀元前1700年頃から300年頃までの文字は亀の甲や獣の骨に刻したもの、又は青銅器等に鑄造されたもので、中国の殷・周の時代の頃のものを総称して古文と呼んでおり、その形体はさまざまです。紀元前300年以降、東周から秦に到って、統制された書体になり、これを小篆といいます。

【隸書】この書体の起源も古く、紀元前300年頃の貨幣に残る記録がありますが、盛行したのは漢（紀元前200年以降）の時代です。実用的で簡便に筆記することを目的として生まれた簡素な書体を古隸と呼び、やがて、美的要求により、横画の末を長く払い出す八分隸という体が生まれて、この書体を代表するようになりました。

【楷書】今日の読みよい文字、つまり活字の母体となっているのが楷書です。その発生は後漢（紀元20年～220年）の末頃、隸書に代わる書体として書かれるようになり、三国・六朝・隋・唐にかけて発達しました。殊に唐代は楷書の名家がその書を競って、楷書の黄金時代を築きました。現代の楷書作品は、むしろそれ以前の六朝時代北派の峻険な石刻文字や、温雅な魏晋の小楷を背景とする表現が多く見られます。

【行書】行書は楷書とほとんど同じ時期に生まれた書体で、最も広く書かれている普遍性のある書体です。行書が普及したのは東晋（紀元317年～385年）の時代で、書聖王羲之の書が中心となって、その書跡の芸術性を鑑賞する風習が定着したことによります。それ以後書の名家が書品を競う風習が盛んになりました。

【草書】草書の発生は、楷書や行書より早く、紀元前100年頃前漢の時代に書かれたものが近年出土していますが、発達の経緯は行書と同じ東晋の時代に中国全土に広がり、王羲之・王献之を中心とする名家を輩出しました。草書は行書と調和することで、その後の書芸術の名品を多く残し、現代の書作品の中で最も大きな位置を占めています。

かな作品……かな文字は、我が国の言葉を正しく記述する必要から、漢字伝来の後、万葉仮名を起点として、奈良時代に改良され、平安時代に到って完成されました。かなの書が芸術的に昇華されたのも平安時代です。現代かな作品は、本来の繊細な味わいのものと共に、新しい様式が加わり、大きな紙面を少ない字数で構成する表現のもの等、極めて多彩な作品を見ることができます。

調和体作品…漢字とかなを交えて書く作品。現代文体を広範囲に題材とした作品で、新しい書の愛好者の間で親しまれています。書の作品として登場したのは戦後で、「読める書」として昭和30年頃から書道界に進出してきました。日展にこの調和体が登場してきたのは昭和36年頃からです。新傾向の書としてどう進展していくのか、注目されるところです。

篆刻作品……一般に篆文を印材に刻るので「篆刻」と呼んでいます。实用印と混同されがちですが、篆刻はあくまでも鑑賞の対象として区別されます。古くは、金属、玉、牙などの硬質の材料を用いたので、すべて工人の手になりましたが、元末（紀元1300年以降）青田石という軟質の石が発見されて以来、文人の間で篆刻に親しむ者が多くなりました。清代に入って金石学の興隆と共に高度な芸術として定着し、清代中末期には多くの名家を輩出し、多彩な制作が行われています。わずか方寸の中に凝縮される古代文字の造形は愛好者が多く、ひそかなブームになりつつあります。

参考文献 第33回 日展アートガイド 社団法人日展 2001 p.168, p.169



# 第45回 宇都宮市民芸術祭美術展 書道展

## 2024.5/30木 — 6/2日

【会場】宇都宮市文化会館 展示室

【時間】10:00～17:00（最終日は16:00まで）

【公開講評会】6月2日(日)

13:00～14:00 審査員の先生による揮毫

14:00～16:00 公開講評会

主催：宇都宮市民芸術祭実行委員会（宇都宮市、宇都宮市教育委員会、公益財団法人うつのみや文化創造財団）

共催：宇都宮市文化協会

後援：宇都宮市民憲章推進協議会、(株)下野新聞社、(株)栃木リビング新聞社、(株)とちぎテレビ、NHK宇都宮放送局、宇都宮ケーブルテレビ(株)、(株)栃木放送、(株)エフエム栃木、タウン情報もんみや、宇都宮コミュニティFMミヤラジ

# 書道

応募点数 121点

入選点数 121点

受付番号	賞	作品名	氏名	受付番号	賞	作品名	氏名
60	市民芸術祭賞	生	弓座恵美子	31	〃	望海楼晚景五絶	伊澤 玲子
65	準市民芸術祭賞	日る山の…	江田真粧美	100	〃	蜀素帖	石塚 葵
85	〃	神鶏の聲 梅田ひろしの句	山本 響花	82	〃	臨 文皇哀冊	磯貝 佑奈
94	奨励賞	宋・蘇東坡 望湖樓醉書五絶之一	岩上 智和	13	〃	がんばれ…	稲見 美枝
76	〃	臨 木簡	狐塚 憲汰	86	〃	塞翁馬	岩村 一枝
108	〃	臨 魏靈藏造像記	中嶋 彩子	80	〃	臨 喪乱帖	宇賀神田夏
36	〃	藤波の花は… 藤の花をりて…	防木 正華	116	〃	臨 李嶠詩	薄井 咲弥
40	〃	春夕(崔塗)	宮下 幸鼓	34	〃	芙蓉楼送辛漸(王昌齡)	絵面 蛍悦
45	秀作	村山槐多詩	阿部 玲子	68	〃	臨 賀蘭汗造像記	大越 咲弥
109	〃	臨 灌頂記	石川 凜	5	〃	百人一首「めぐりあひて」紫式部	大塚 紫月
55	〃	不思議	上野 紅鴛	87	〃	終年無客…(王維)	小熊 伸子
101	〃	臨 左繡序	大木 真衣	1	〃	道	小野寺泰子
59	〃	わすれ草…(素性法師)	金子 恵	38	〃	十二愛詩 其十一	小花 弘子
63	〃	さみだれ	神戸 玲子	11	〃	視	加藤 あい
88	〃	豊楽年成春…(趙甌北)	菊地 芳子	97	〃	道因法師碑	金子 鈴奈
104	〃	臨 蘭亭序	首藤 芽来	112	〃	臨 源氏物語絵巻	河合 琴羽
21	〃	匏瓜空繫	鈴木 直樹	20	〃	得隴望蜀. 窮寇勿追	河合 恒明
42	〃	時	鈴木美代子	39	〃	偶成(朱熹)	川上 遊水
91	〃	月下獨酌(李白)	塚田 湊心	89	〃	詩は生命の滴りだ	神藤 信游
8	〃	この葉ちる	中村 秋蕾	77	〃	臨 白氏詩巻	菊地 紬生
24	〃	月到天心處	奈良原翠風	41	〃	山紫水明	木島 來夢
95	〃	山亭夏日	坂内 葉胡	30	〃	忘れじの…儀同三司母	木嶋 麗雪
28	〃	照りもせず…他一首	福富 古龍	69	〃	臨 長風帖(王羲之)	君嶋ひなた
2	〃	即事	古池 希風	19	〃	雲ふたつ…若山牧水	木村 多伊
48	〃	夕焼空よ(自作)	山越 悠空	113	〃	臨 道因法師碑	國友 映見
6	〃	観	吉岡 玉雲	4	〃	春たちける日(古今和歌集)	久保 千樹
44	入選	雨の絲(自作)	相田 裕子	102	〃	臨 地黄湯帖	栗原 里奈
33	〃	湖上間望 藤花浪拂…	青山 香苑	32	〃	蒼穹	小口 佳水
7	〃	さくらいろ…他二首	東 千春	103	〃	臨 集王聖教序	小林怜央奈
96	〃	足るを知る	飯島 裕太	114	〃	臨 曹全碑	齋藤瑚乃和
3	〃	蘇生	飯野 崇	67	〃	縁	齋藤 洋子
57	〃	愚庵即事 其一	池田 恵泉	70	〃	臨 建中告身帖(顔真卿)	齋藤 凌

受付番号	賞	作品名	氏名	受付番号	賞	作品名	氏名
46	〃	アイザック・ニュートンのことば	佐藤 史人	74	〃	臨 魏靈藏造像記	星野いぶき
22	〃	とぶほたる…他二首	佐野のり子	10	〃	銀	前田 義勝
27	〃	剛	末永 洋子	111	〃	臨 李嶠詩	松井李里香
35	〃	芳草客尋…	鈴木 靖翠	117	〃	臨 孫秋生造像記	松下 薫
120	〃	空洞(大森静佳)	鈴木 聖寶	12	〃	夢	松島 櫻子
61	〃	興	鈴木 健夫	26	〃	春の夜の月	松本 英華
121	〃	真草千字文(趙子昂)	鈴木 和	17	〃	静	松本 光司
43	〃	紅塵堆裏聖賢衝	鈴木 英男	81	〃	臨 孔子廟堂碑	丸尾 奈々
75	〃	臨 李嶠雜詠	瀬尾和加奈	90	〃	山葉早梅…(鄭珣瑜)	箕輪 好恵
23	〃	桃花争曉色…(朱彭)	高根澤深幸	15	〃	陽	宮嶋 篤子
71	〃	臨 皇甫誕碑(欧陽詢)	高橋 明菜	66	〃	ひとはいざ心もしらず(紀貫之)	森田 典子
16	〃	浮雲連海岱(杜甫)	高橋 智子	83	〃	臨・松風閣詩巻	森戸 梅仙
9	〃	碧	高林 由美	84	〃	李白詩：自遣	森戸 梅仙
118	〃	夜行	竹原 春香	106	〃	臨 智永真草千字文	門前 彩緑
99	〃	伊都内親王願文	辰元 爽夏	64	〃	雨後の秋山	安井 弘美
78	〃	臨 李嶠雜詠	蓼沼 未來	119	〃	蝶黄花紫燕相追…	柳田 翠逕
110	〃	臨 伊都内親王願文	手塚 隆仁	92	〃	春暁の…(自詠)	山岡 登美
56	〃	小林老誓の詞	友岡 夏山	58	〃	王羲之尺牘集	山本 榮山
14	〃	無	豊田 英子	52	〃	BRUCE LEE の言葉	横田 千年
107	〃	臨 九成宮醴泉銘	中嶋 花	51	〃	福田正夫の詩	渡辺 都美
79	〃	臨 鄭長猷造像記	中館和佳奈	98	〃	伊都内親王願文	和田部咲來
47	〃	息子のことば	長原 三治				
50	〃	山頭火の句	中原 蘭				
18	〃	寛	中村ひろみ			第44回市民芸術祭賞受賞者	
73	〃	臨 高貞碑	中山 佳音			岩壁の山桜(自作)	登坂 時子
93	〃	和風慶雲	中山 優				
49	〃	いのり	根本 光成			[審査員・運営委員]	
54	〃	BUSHIDO(自作)	野中 悟志		審査員	三年不鳴	赤澤 豊
62	〃	春眠不覚曉	長谷川瑞香		審査員	廓然洞豁	鶴見 晨蒲
72	〃	臨 張遷碑	原田 知珂		審査員	遺伝(斉藤和義の詩)	中原 藍
53	〃	草野心平の詩	日村 亜紀		審査員	康	村松 太子
29	〃	何允泓 句	平塚 祐子		顧問・選評員	みをつくし	見目 月華
25	〃	このめふく…他一首	平野 凜陽		運営委員	雕心鏤骨・謹守古法	作佐部京子
37	〃	夏初遊櫻祠	平山 英翠		運営委員	満開の桜	関 奨人
115	〃	臨 真草千字文	福田 真那		運営委員	山の背に	中原 睦美
105	〃	臨 雁塔聖教序	星 さくら		運営委員	衢塗	福岡 俊介